多賀城のみらいを創る文化・芸術系の人財育成プロジェクト「万物の扉」
企画運営業務委託仕様書

第1章 総則

1 適用範囲

本仕様書は、多賀城市（以下「発注者」という。）が委託する多賀城のみらいを創る文化・芸術系の人財育成プロジェクト「万物の扉」企画運営業務（以下「本業務」という。）に適用する。

2 業務の目的

旧くは「みちのおく」とも呼ばれた陸奥国を治めた多賀城がこの地に創建されたのは、神亀元年（724年）のことであった。その創建年を今に伝える唯一の史料でもある「国宝 多賀城碑」と対面した松尾芭蕉は、千年の時を経て変わらず佇む姿に落涙するほど感動したと云う。絶えず変化を重ねる世にあって、どれほど時が過ぎても変わらないものがある、ということを目の当たりにした芭蕉は、「不易を知らざれば基立ちがたく、流行をわきまへざれば風あらたならず」といった俳諧理念の本質を捉えた不易流行の考えに至ったとされる。

翻って現代の多賀城市は、こうした歴史文化を背景に、千古不易の多賀城固有の価値を大切にしながらも、文化芸術が持つ創造力を新たな価値づくりの源泉とすることで、「市民生活を豊かにする」というコンセプトを持つ多賀城市立図書館や、「国内屈指の音響性能を持つと評価の高い」多賀城市文化センターの大ホールを中軸に据え、常に進化し続ける文化政策を行政が牽引する形で進めてきたところである。そうして取り組んできた文化政策の一つの到達点を、多賀城創建1300年記念事業の各種文化プログラムに捉えた場合、多賀城ならではの普遍の歴史資源に、様々なジャンルの文化芸術を掛け合わせるなど多種多彩な文化プログラムを数多く展開したことは、多賀城の更なる潜在能力を引き出し、地域振興のポテンシャルを高めることに成功したと云えよう。

しかしながら、多賀城に暮らす市民がこの町を誇りに思い、また、真に魅力のあるまちとしてこの先もあり続けるためには、行政主導の文化政策から脱却し、自立した市民の、市民による市民のための文化プログラムに昇華させる必要がある。

いつの時代も文化の中心にいるのは若者である。多賀城に暮らす若者が、文化芸術の持つ役割や可能性を考え、様々な「知」に触れることを通して互いに新たな発見と創造と気づきを促し、ともに思索と探索を深めることで、多賀城のより豊かな未来づくりに向けて地域社会とつながることができている、そして、その先には、多賀城の地で培った経験をもとに、既存の枠組みに捉われることなく、

世界へと飛び立ち、世界を舞台に活躍することができている、本事業はそんな人財を中長期にわたって育成することを主眼とした事業である。

3 委託期間

契約締結日の翌日から令和8年3月27日(金)まで

4 業務の実施

本業務は、本仕様書、契約約款等に基づき行うものとする。

また、本仕様書に疑義が生じたとき、又は定めのない事項については、お互いに誠意を持って協議の上、決定すること。

5 環境配慮事項

発注者は、地球環境への負荷軽減のため、省エネルギーの推進、再生エネルギーの利用拡大、廃棄物の減量等の対策に取り組んでいることから、受注者は契約の範囲内において、環境に配慮した事項を可能な限り実行すること。

6 暴力団排除措置事項

- (1) 受注者は、多賀城市が発注する建設工事、建設関連業務、物品調達等（以下「建設工事等」という。）において、当該契約の履行に当たり暴力団員等による不当要求又は妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、不当介入があった時点で速やかに警察への通報等を行うこと。
- (2) 受注者は、上記(1)により警察に通報を行った場合には、速やかに企画経営部市民文化創造課長にその内容を書面により報告すること。
- (3) 受注者は、暴力団等による不当介入を受けたことにより業務に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、企画経営部市民文化創造課長と協議を行うこと。

7 著作権

- (1) 本業務で作成した書類及び成果品等の著作権は、受注者が従前から保有していた等の明確な理由により、書面で権利譲渡不可能と示したものの以外、全て発注者に帰属するものとする。
- (2) 受注者は、本仕様書に示す業務で作成される成果品について、発注者の承諾を得ずに第三者へ譲渡し、貸与し、又は使用させてはならない。
- (3) 受注者は、本仕様書に示す業務で作成される成果品について、発注者の承諾を得ずに公表してはならない。
- (4) 受注者は、発注者に対し、成果品等に係る著作者人格権を行使しないものとする。

8 一括再委託の禁止

- (1) 受注者は、業務のうち履行の全部、主要な部分又は契約金額の概ね2分の1以上に相当する部分を委任し、又は請け負わせることをしてはならない。
- (2) 業務の一部を再委託しようとする場合には、再委託承諾申出書を発注者に提出し、承諾を得なければならない。
- (3) 本業務の主要な部分は業務プロジェクト管理とし、受注者が自ら履行しなければならない。

9 提出書類

受注者は、業務完了後、次に掲げる書類を発注者に提出するものとする。

- (1) 業務完了報告書 一式
- (2) 業務により作成した資料等 一式
- (3) その他発注者が指示する関係書類 一式

10 履行確認

業務完了後、受注者は書類等を提出し、発注者の検査合格後に完了とする。

11 支払条件

業務完了後一括払

第2章 業務内容

1 参加対象

多賀城市内在住、又は多賀城市内に在学する若者（主に10代後半から20代前半までを想定）

2 開催回数

令和7年10月から令和8年3月までの6か月間において、全6回開催すること。

各回の開催時間については2時間程度とすること。

3 開催方式

原則として、本市が指定する市内公共施設での開催とすること。

なお、参加費用は徴収しないこと。

4 開催時の留意事項

- (1) 各回完結型のプログラムを組み、毎回異なるテーマを設定すること。
- (2) 全6回のシラバスを作成し、受講者に提示すること。
- (3) インタラクティブな対話とともに、リアルな交流から生まれる学びの場とすること。
- (4) 文化芸術の持つ創造性や多様性を磨き、未来を創る視点を養う場とすること。
- (5) 全6回を通して、同一のファシリテーター、コーディネーターを置くこと。
ただし、ファシリテーター及びコーディネーターを同一の人物が担当することを可とする。
- (6) 開催予定日・会場・参加見込人数は以下のとおりとし、詳細は発注者と受注者との協議の上決定すること。

回	開催予定日	参加見込人数	開催場所
第1回	令和7年10月4日(土)	100人	多賀城駅北ビル3F PUBLIC HOUSE
第2回	令和7年11月下旬	20人	多賀城市立図書館1F 「住まいの間」（予定）
第3回	令和7年12月中旬		
第4回	令和8年1月中旬		
第5回	令和8年2月中旬		
第6回	令和8年3月上旬		

(7) 全6回のうち、少なくとも4回以上はゲストスピーカーを招聘し、そのゲストを交えた形でサロンを開催すること。

なお、ゲストスピーカーは毎回異なる分野の異なる人物を選出すること。

(8) 初回のサロンでは、第2回目以降のサロンへの参加者をより多く集めることを目的として、全国的に著名な有識者を招聘すること。

(9) 第2回目以降のサロンにおけるゲストスピーカーは、本市にゆかりのあるアーティストの中から、本業務の目的達成に資する人物を選定し、招聘すること。
なお、発注者からゲストスピーカーの人選に関する指定は行わない。

(10) ゲストスピーカーの招聘に係る費用（謝金、交通費等）は、本業務に係る費用に含めること。

(11) 各回のサロンにおいては、参加者が学んだことや感じたことを、コーディネーターが対話を通じて聞き取り、その内容をもとに、本業務の目的がどの程度達成されたかについて、随時に、又は業務完了の際に報告すること。

5 参加者募集及び周知

(1) 事業への参加者の募集は、発注者が作成・管理する応募フォームを使用して、発注者が行うものとする。

(2) 事業への参加者募集に係る広報（チラシ等の作成を含む。）に関しては、発注者が行うものとし、当該チラシ等広報素材の提供等に関して、受注者は協力するものとする。

(3) 本事業への参加者募集に係る広報（ホームページやSNS等による発信に限る。）に関して、市の公式ホームページ・SNSにおける取組に連動し、受注者が保有又は管理するホームページやSNS等においても可能な限り、対応すること。

6 今後の展開に関するビジョン

本事業は業務の目的に記載のとおり、中長期的なビジョンを見据えて取り組む方針で進めることから、5年程度の中期的な展望を持って本業務を行っていくものとする。

このため、本業務実施方針の中に、本業務の目的達成のための中期的な取組の大綱を提案内容に盛り込むこと。

なお、令和8年度から令和11年度までの事業実施については、それぞれの年度の予算が成立することを条件として、随意契約による実施を予定している。